

13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2010). Prague, Oct.

- 20) 佐藤佳世, 田部 宏, 小池裕人, 新崎勤子, 高倉 聡, 山田恭輔, 岡本愛光, 池上雅博, 落合和徳, 田中忠夫. 術前診断が可能であった卵管明細胞腺癌の一例. 第49回日本臨床細胞学会秋期大会. 神戸, 11月.

IV. 著 書

- 1) 落合和徳, 中島邦宣. V. 婦人科がん・泌尿生殖器がん A. 婦人科がん 3. 進行卵巣がんでは術前化学療法は推奨されるか? 西條長宏監修. EBMがん化学療法・分子標的治療法 2011-2012. 東京: 中外医学社, 2010. p.370-2.
- 2) 倉骨 彰, Kurahone TT, Kurahone CA 著, 横田 淳, 谷憲三朗, 岡本愛光, 加藤元彦, 瀬戸浩行監修. 怪我と病気の英語力: 病院・医院で役に立つ文例 2800. 東京: 日本経済新聞出版社, 2010.
- 3) 磯西成治他, 日本婦人科腫瘍学会編. 卵巣がん治療ガイドライン 2010年版. 第3版. 東京: 金原出版, 2010.
- 4) 岡本愛光他, 日本婦人科腫瘍学会編. 患者さんとご家族のための子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がん治療ガイドラインの解説. 東京: 金原出版, 2010.
- 5) 山田恭輔. 婦人科腫瘍. UICC 日本委員会 TNM 委員会訳 TNM 悪性腫瘍の分類: 日本語版. 第7版. 東京: 金原出版, 2010. p.182-223.

V. その他

- 1) 落合和徳. 漿液性進行卵巣癌における細胞周期調節蛋白の発現と臨床病理学的検討. 厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)分担研究報告書 2010; 39-42.
- 2) 佐々木寛, 林 博, 岡本愛光, 杉本公平, 柳田 聡, 橋本朋子, 高橋絵理, 高倉 聡, 山田恭輔, 落合和徳, 田中忠夫. ホルモン療法既往子宮内膜症患者におけるジェノゲストの長期投与に関する検討. 第363回四水会. 東京, 6月.
- 3) 落合和彦. 子宮頸がんの予防ワクチンについて. 第10回練馬小児科臨床症例研究会. 東京, 4月.
- 4) 落合和徳. インフルエンザの最新情報(Ⅱ)ハイリスク患者の管理-妊婦. ドクターサロン 2010; 54(7): 53-6.
- 5) 野澤絵理, 和田誠司, 田沼有希子, 川畑絢子, 加藤淳子, 田中邦治, 種元智洋, 鈴木啓太郎, 大浦訓章, 落合和徳, 田中忠夫. 癒着胎盤症例における他科との連携. 第364回四水会. 東京, 11月.

泌尿器科学講座

教授: 颯川 晋	前立腺癌, 泌尿器悪性腫瘍, 腹腔鏡手術
教授: 小野寺昭一	尿路性器感染症
教授: 岸本 幸一	尿路感染, 老人泌尿器科学
准教授: 池本 庸	男性科学, 前立腺癌
准教授: 清田 浩	尿路感染症, 前立腺肥大症, エンドウロロジー
准教授: 浅野 晃司	尿路上皮腫瘍, 分子腫瘍学
准教授: 古田 希	副腎腫瘍, 尿路結石
准教授: 鈴木 康之	排尿障害, 女性泌尿器科
講師: 波多野孝史	腎細胞癌
講師: 三木 健太	前立腺癌

教育・研究概要

I. 泌尿器悪性腫瘍に関する研究

1. 基礎的研究

- 1) プロテオーム解析による前立腺癌新規腫瘍マーカーの探索(車 英俊, 木村高弘, 鎌田裕子, 小出晴久, 山本順啓, 面野 寛, 都筑俊介)

プロテオーム解析法による新しい前立腺癌新規バイオマーカーを探索している。前立腺癌病理標本からレーザーマイクロダイセクションにより, 癌部(low GS, high GS, M1 症例), 正常部を切り出し, nano LC-MS/MSにより網羅的プロテオーム解析を行い, 新規前立腺癌マーカー候補蛋白を発見した。これらの結果は第99回日本泌尿器科学会等で発表した。

- 2) 日本人由来新規前立腺癌細胞株(木村高弘)

当科にて日本人前立腺癌患者手術検体より樹立した新規前立腺癌細胞株 JDCaP のホルモン抵抗株を作成した。JDCaP 皮下移植マウスを去勢し, その後に発育した腫瘍を継代し安定系を作成した。現在ホルモン抵抗性獲得機序の解明をおこなっている。

- 3) 神経泌尿器科, 女性泌尿器科に関する基礎的研究(古田 昭)

- (1) 過活動膀胱と腹圧性尿失禁との関連に関する基礎的研究

妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷により腹圧性尿失禁を生じることがよく知られているが, 本研究で陰部神経の部分損傷が過活動膀胱を同時に誘発することを実験的に証明した。これは, 女性の尿失禁のなかで混合性尿失禁(腹圧性尿失禁と切迫性尿失禁の両方を併発)が臨床的に最も多いことと一致する。

以上の内容を2007年国際禁制学会(Rotterdam), Am J Physiol 2008; 294: 1510-6で発表した。

(2) 腹圧性尿失禁に対する自家骨格筋芽細胞移植療法の有用性に関する基礎的研究

尿失禁を呈するラットの尿道に人の大腿部から採取した骨格筋芽細胞を移植したところ、尿失禁の改善が認められた。その神経生理学的機序を2007年国際禁制学会(Rotterdam), Int Urogynecol J 2008; 19: 1229-34で発表した。

(3) 腹圧時の尿禁制における α_2 アドレナリン受容体の役割に関する基礎的研究

尿禁制において α_1 アドレナリン受容体が重要な役割を果たしていることがすでに証明されている。本研究では中枢における α_2 アドレナリン受容体とグルタミン酸との関連について、2008年米国泌尿器科学会(Orlando), 2008年アジア国際禁制学会(Kaohsiung), LUTS 2009; 1: 26-9, J Urol 2009; 181: 1467-73で発表した。

(4) 陰部神経損傷後の尿禁制代償機序に関する基礎的研究

出産後約3割の女性に腹圧性尿失禁が認められるが、およそ半年以内に自然消失する。一方、妊娠や出産に伴う陰部神経の損傷は加齢とともにむしろ増悪する。このことは、陰部神経損傷による尿道(閉鎖)機能障害を代償する機序が働いていることが推測される。この陰部神経損傷後の尿禁制代償機序について、2008年日本泌尿器科学会(横浜), 2009年日本排尿機能学会(福岡), 2009年国際禁制学会(San Francisco), 日本排尿機能学会誌 2009; 20: 346-51, Int Urogynecol J 2011; 22: 963-70で発表した。

(5) TRPA1を介する骨盤内臓器間感作による間質性膀胱炎モデルの確立

間質性膀胱炎とは膀胱に非特異的炎症を伴い、頻尿や膀胱痛を呈する病態不明の疾患である。臨床的に間質性膀胱炎患者は過敏性腸症候群や子宮内膜症など膀胱外の骨盤内臓器の炎症性疾患を高率に合併することから、その病態のひとつに骨盤内臓器間感作の関与が示唆されている。本研究では大腸や子宮のTRPA1を刺激すると間質性膀胱炎様症状を呈することを実験的に証明した。これらの内容を2010, 2011年日本泌尿器科学会(盛岡, 名古屋), 2010, 2011年米国泌尿器科学会(San Francisco, Washington D.C.), BJU Int (In press)で発表した。

2. 臨床的研究

1) Intermediate risk 前立腺癌に対する小線源永久挿入療法における補助内分泌療法効果の

検討(三木健太, 木戸雅人)

早期前立腺癌に対する放射線治療として I^{125} 密封小線源を前立腺に挿入する小線源永久挿入療法を2003年10月より行っている。当院は国内2番目に同治療を開始しており、現在治療計画法による線量計算の違いや、副作用の発生頻度につき研究中である。Intermediate risk 群に対して補助内分泌療法効果の効果を検討している。2008年4月から開始した“未治療中間リスク群限局性前立腺癌に対するNHT+ヨウ素125密封小線源永久挿入療法+AHT併用療法とNHT+ヨウ素125密封小線源永久挿入併用療法とのランダム化比較臨床試験(SHIP0804)”は2011年5月末日に、全421症例の登録が完了した。このSHIP0804のプロトコルの論文は2010年にBMC Cancerに掲載され、2011年のヨーロッパ放射線腫瘍学会(ロンドン・英国)等で発表した。

2) High risk 前立腺癌に対する、外照射併用高線量率組織内照射療法の検討(三木健太, 佐々木裕, 山本順啓, 木戸雅人)

High risk グループの前立腺癌の治療の際に外照射併用高線量率組織内照射療法(HDR brachytherapy)とホルモン治療と投与期間の違いにより治療効果と副作用にどのように影響するかを検討している。これまでに当施設で実施したHDR brachytherapyの治療成績を2010年日本泌尿器科学会(盛岡)等で発表した。これまでに当施設で実施したHDR brachytherapyの治療成績を2011年のヨーロッパ放射線腫瘍学会(ロンドン・英国)等で発表した。

3) 泌尿器手術における深部血栓症予防に関する研究(畠 憲一, 木戸雅人)

泌尿器科手術周術期における深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症に対する予防を、フォンダパリヌクスナトリウムとエノキサパリンナトリウムで施行し、その有効性と安全性を比較・検討する。現在症例を集中中である。

4) 剖検におけるラテント前立腺癌の研究(木戸雅人, 木村高弘)

従来から前立腺はラテント癌の多い臓器として知られている。1970~80年代には多くの報告がされてきた。近年、前立腺癌の罹患率は増加傾向にあり、ラテント癌も同様と考えられる。Tronto大学のAlexandre R. Zlotta医師により世界5地域におけるラテント癌の調査が2008年に始まり、アジア地域の調査施設として慈恵医大が指名された。本学倫理審査委員会の審査を受け、2008年3月1日から「前立腺癌およびその前癌病変の頻度と年齢分布の国際比較：剖検検体を用いた中央病理による多施設共同

前向き調査」を実施している。研究対象は当初2008年3月1日から2年間の予定であったが、延長となり2011年9月に追加2例を含めた全102症例の標本作製が終了した。Tronto大学で診断解析後に慈恵医大のデータも含めて論文となる予定である。

5) 小径腎腫瘍に対するMRIガイド下経皮的凍結治療後の経時的変化に関する検討(波多野孝史)

2001年3月から2002年5月まで、MRIガイド下経皮的凍結治療施行した13例において、凍結領域局所のCT所見による経時的変化について検討した。

凍結治療はMRI対応凍結治療器CRYO-HITを使用した。治療は局所麻酔下にて行い、凍結にはアルゴンガスを用い -185°C で冷却し、解凍にはヘリウムガスをを用い $+35^{\circ}\text{C}$ まで加温した。凍結時間は15分でこの操作を2回繰り返した。治療直後凍結領域は造影効果のない腫瘍を呈するが、経時的変化として脂肪変性を5例、瘢痕変性を8例に認めた。経過中他因死した1例を除き、脂肪変性群は全例4年以内に消失したのに対し、瘢痕変性群では消失3例、縮小するものの残存1例、腫瘍再発3例であった。再発例に対しては2例に腎部分切除術を、1例に腎摘除術を施行した。凍結治療による腫瘍の完全消失率は67%であった。MRIガイド下経皮的凍結治療後凍結領域の吸収される過程において、脂肪変性を示す症例は完全消失が期待できる。一方瘢痕変性を呈する場合長期にわたり腫瘍が残存し、一部において再発する可能性があるため定期的な経過観察が必要と考えられた。本研究の内容は低温医学2010;36(4):103-8に発表した。

6) 進行腎細胞癌に対する分子標的薬によるneoadjuvant/pre-surgical treatmentの臨床的検討(波多野孝史)

進行性腎癌に対する術前分子標的薬治療の安全性、有効性、問題点について検討した。

2010年4月までに当科において進行性腎癌に対して分子標的薬治療後に原発巣摘除術を施行した8例を対象とした。それぞれの症例においてstage, PS, 薬剤投与量, 投与期間, 腫瘍縮小率, 休薬期間, 有害事象を集計した。手術成績として術式, 手術時間, 出血量, 術後合併症, 予後について検討した。平均年齢56歳。Sorafenib 3例, Sunitinib 5例。平均投与期間43日。転移部位は肺3例, 傍大動脈リンパ節1例。投与終了後2週間の間隔をあけて手術を行った。2例にて原発巣の縮小効果を認め、2例

にて肺転移病理組織診は全例淡明細胞癌であった。術後合併症として、腸閉塞が1例、腎部分切除後尿漏が遷延した症例を1例認めた。Down size, down stageを目的とした分子標的薬によるneoadjuvant/pre-surgical treatmentは有害事象は出現するが、較的に安全に施行できた。一方分子標的薬により腫瘍縮小効果が得られたものの、治療に伴う癒着により手術の難易度が増した症例もあり、その適応について十分検討すべきと考えられた。本研究は2010年日本泌尿器科学会東部総会(宇都宮)で発表した。

「点検・評価」

2010年は論文投稿や日本泌尿器科学会をはじめ多くの分科会での研究発表など比較的多くの研究業績を残すことができた。腫瘍研究では引き続きプロテオミクスを中心とした基礎研究や他施設共同での臨床研究で多くのプロジェクトが進行した。また、深部血栓予防や腎癌に関する研究なども継続して行っており、今後の研究が期待される。また、神経泌尿器科、女性泌尿器科に関する基礎的研究も引き続き行っているが、2010年度は新しい切り口の研究も行った。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 池本 庸, 成岡健人, 梅津清和, 大塚則臣, 村上雅哉, 小杉 繁, 白井 尚. IPSS-QOL からみた前立腺肥大症例におけるbotherに関する研究. 泌外2010;23(9):1291-8.
- 2) 岸本幸一, 波多野孝史, 額川 晋, 三宅 亮, 大橋一善, 小山 勉. Silo closure が有用であった重症腎外症の2例. 臨泌2010;64(13):1017-20.
- 3) 山崎春城. 【前立腺がん診療の地域連携】前立腺がん地域医療連携 大学病院の立場から. 泌外2010;23(6):781-6.
- 4) 鈴木康之, 古田 昭, 成岡健人, 本田真理子, 額川 晋, 兼平千裕. 高線量率腔内照射が有効であった女性尿道悪性黒色腫. 臨泌2010;65(1):65-8.
- 5) 鈴木康之, 高坂 哲, 古田 昭, 本田真理子, 額川 晋. 急性疾患回復期高齢尿閉患者の自力排尿機能早期評価の試み 意欲の指標の有用性. 日創傷オストミー失禁管理会誌2010;14(3):252-7.
- 6) 古田 希, 本田真理子, 稲葉裕之, 小池祐介, 大塚則臣, 山本順啓, 佐々木裕, 林 典宏, 木村高弘, 額川 晋. 副腎腎臓脂肪腫5例の臨床的検討. 臨泌2010;64(2):155-9.

- 7) Hatano T, Uno T, Tsuduki S, Koike Y, Hata K, Kishimoto K, Mogami T, Sunakawa Y, Harada J, Egawa S. Chronological changes after MRI-guided percutaneous cryotherapy for small renal tumors. 低温医 2010; 36(4): 90-5.
- 8) Miki K, Kiba T, Sasaki H, Kido M, Aoki M, Takahashi H, Miyakoda K, Dokiya T, Yamanaka H, Fukushima M, Egawa S. Transperineal prostate brachytherapy, using I-125 seed with or without adjuvant androgen deprivation, in patients with intermediate-risk prostate cancer: study protocol for a phase III, multicenter, randomized, controlled trial. BMC Cancer 2010; 10: 572.
- 9) 三木健太. 【開腹手術にも役立つ腹腔鏡下前立腺全摘除術における工夫とその効果】尖部処理の工夫. 泌外 2010; 23(11): 1547-8.
- 10) 古田 昭, 柳澤孝文, 本田真理子, 石井 元, 小池祐介, 成岡健人, 鈴木康之, 額川 晋. 神経因性過活動膀胱を誘発する脊髄損傷と脳梗塞ラットにおけるソリフェナシンの有用性の検討. 日排尿機能会誌 2010; 21(2): 320-4.
- 11) Kimura T, Hiraoka K, Kasahara N, Logg CR. Optimization of enzyme-substrate pairing for bioluminescence imaging of gene transfer using Renilla and Gaussia luciferases. J Gene Med 2010; 12(6): 528-37.
- 12) Miki J. Investigations of prostate epithelial stem cells and prostate cancer stem cells. Int J Urol 2010; 17(2): 139-47.
- 13) Sasaki H, Miki J, Kimura T, Yamamoto T, Koike Y, Miki K, Egawa S. Upfront transection and subsequent ligation of the dorsal vein complex during laparoscopic radical prostatectomy. Int J Urol 2010; 17(11): 960-1.

II. 総 説

- 1) 清田 浩. 【性感染症 (STI) 診療のファーストステップ】性感染症の予防. 臨研プラクティス 2010; 7(2): 76-7.
- 2) 鈴木康之, 古田 昭. 【排尿障害】前立腺肥大症と排尿障害. 臨検 2010; 54(7): 739-46.
- 3) 鈴木康之, 古田 昭. 【今日からケアが変わる 排尿管理の技術 Q&A 127】排尿機能検査 排尿機能検査の基礎知識 ナースのかかわりが期待されている! 泌ケア 2010; 冬季増刊: 238-43.
- 4) 鈴木康之. 【メタボリックシンドロームと排尿障害】メタボリックシンドロームと過活動膀胱. 排尿障害 2011; 19(1): 7-10.
- 5) 鈴木康之. 【泌尿器科の患者さんからこっそり聞かれる疑問 Q&A】どのように患者さんの悩みに答えるべきか? 泌ケア 2011; 16(3): 258-60.
- 6) 鈴木康之. 専門医+エキスパートに聞く よりよい服薬指導のための基礎知識 Vol 6 OAB (過活動膀胱). Credentials 2010; 23: 20-2.
- 7) 三木 淳, 額川 晋. 泌尿器科領域におけるトラブルシューティング (第 11 回) 腹腔鏡下前立腺全摘除術中における直腸損傷に対する予防, 対処法. 泌外 2010; 23(7): 945-7.

III. 学会発表

- 1) 額川 晋. (シンポジウム 2: QOL を考えた限局性前立腺癌の治療) 腹腔鏡下前立腺全摘除術. 第 23 回日本老年泌尿器科学会. 東京, 5 月. [第 23 回日本老年泌尿器科学会プログラム・抄録集 2010: 26]
- 2) 池本 庸, 成岡健人, 梅津清和, 大塚則臣, 村上雅哉, 中條 洋, 白井 尚. BPH/male LUTS 症例における QOL と Bother. 症状の関係に関する検討. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 3) 山崎春城, 木戸雅人, 額川 晋. 前立腺癌治療後の長期管理について - 前立腺がん地域医療連携 CaPM-net. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 4) 鈴木康之, 古田 昭, 本田真理子, 小池祐介, 古田希, 木村高弘, 長谷川雄一, 成岡健人, 菅谷真吾, 鈴木英訓, 池本 庸, 高坂 哲, 額川 晋. 排尿障害の背景としての鬱・加齢・肥満. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 5) 古田 希, 小池祐介, 山本順啓, 佐々木裕, 三木 淳, 林 典宏, 木村高弘, 額川 晋. プレクリニカルクッシング症候群を合併した原発性アルドステロン症の臨床的検討. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 6) 遠藤勝久, 清田 浩, 伊藤博之, 細部高英, 讃岐邦太郎, 土田圭一¹⁾, 生川佳代¹⁾, 高倉真理子¹⁾, 高畑正裕¹⁾ (富山化学工業), 小野寺昭一. 男子淋菌性尿道炎由来 *N. gonorrhoeae* の各種抗菌薬に対する感受性と CTRX 低感受性株 *penA* 遺伝子の解析. 第 58 回日本化学療法学会総会. 長崎, 6 月.
- 7) 波多野孝史, 宇野正志, 都筑俊介, 吉良慎一郎, 畠憲一, 岸本幸一, 最上拓児, 砂川好光, 原田潤太, 山田裕紀, 三木健太, 額川 晋. 小径腎腫瘍に対する MRI ガイド下経皮的凍結治療後の経時的変化に関する検討. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 8) 三木健太, 木戸雅人, 山本順啓, 佐々木裕, 青木 学, 兼平千裕, 額川 晋. 高リスク前立腺癌に対するヨウ素-125 密封小線源永久挿入治療の成績. 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会. 浦安, 11 月.
- 9) Furuta A, Suzuki Y, Koike Y, Naruoka T, Furuta N, Egawa S, Chancellor M (William Beaumont Hospital), Yoshimura N (University of Pittsburgh). Time-dependent changes in bladder function and planter

sensitivity in a rat model of fibromyalgia induced by hydrochloric acid injection into the gluteus. American Urological Association Annual Meeting 2010. San Francisco, June.

- 10) 木村高弘, 鎌田裕子, 山本順啓, 車 英俊, 佐々木裕, 下村達也, 三木 淳, 三木健太, 鷹橋浩幸, 西森孝典, 朝長 毅, 野村文夫, 額川 晋. 癌関連蛋白質 periprakin の前立腺癌における発現の検討. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 11) 木村高弘, 佐々木裕, 額川 晋. (パネルディスカッション 4 : 腹腔鏡下前立腺全摘除術の展開) QOL を中心とした腹腔鏡下前立腺全摘除術の治療成績. 第 23 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜, 10 月.
- 12) Hayashi N, Matsushima M, Yamamoto T, Sasaki H, Kimura T, Furuta N, Takahashi H, Egawa S. The impact of hypertriglyceridemia on prostate cancer risk in elcerly patients. The 27th Japan-Korea Urological Congress 2010. Kyoto, Sept.
- 13) 山田裕紀, 加藤貴彦, 鷹橋浩幸, キャサリン・ベニー, マシュー・フリードマン, 車 英俊, 鎌田裕子, 木村高弘, 額川 晋. Replication of prostate cancer risk loci in a Japanese case-control association study. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 14) 長谷川雄一, 中村美智子¹⁾, 久松英治¹⁾(¹成育医療センター). (学会賞候補演題(臨床部門)) 尿道下裂と脊髄病変についての検討. 第 19 回日本小児泌尿器科学会総会. 札幌, 6 月. [日小児泌尿器会誌 2010; 19(2): 123]
- 15) Miki J, Sasaki H, Kimura T, Egawa S. Investigations of prostate epithelial stem cells and prostate cancer stem cells. 第 3 回伊勢志摩前立生物学シンポジウム. 鳥羽, 6 月
- 16) Sasaki H, Miki J, Kimura T, Yamamoto T, Miki K, Egawa S. Lateral view dissection the prostatico-urethral junction to reduce apical margin positivity in laparoscopic radical prostatectomy. The 3rd World Congress on Controversies in Urology (CURy). Athens, Feb.
- 17) 小出晴久, 木村章嗣, 柚須 恒, 富田雅之, 清田 浩, 額川 晋. パイロニー病に対するビタミン E ならびに体外衝撃波治療に関する治療成績. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 18) 山本順啓, 鷹橋浩幸, 佐々木裕, 木戸雅人, 三木 淳, 林 典宏, 木村高弘, 三木健太, 古田 希, 額川 晋. 前立腺導管型腺癌についての臨床病理学的検討. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.
- 19) 木戸雅人, 田畑龍治, 山本順啓, 三木健太, 青木 学, 鷹橋浩幸, 兼平千裕, 額川 晋. High risk 前立腺癌に対する Ir-192 を用いた高線量率組織内照射 (HDR)

の成績. 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.

- 20) 稲葉裕之, 佐々木裕, 三木 淳, 木村高弘, 山本順啓, 小池祐介, 三木健太, 額川 晋. 腹腔鏡下前立腺全摘除術における尖部処理の工夫: DVC 無結紮手技変法と側視による尿道離断 (lateral view dissection). 第 98 回日本泌尿器科学会総会. 盛岡, 4 月.

V. その他

- 1) Nickel JC, Furuta A, Chancellor MB, Roehrborn CG, Assimos DG, Shapiro E, Brawer MK. Best of the AUA Annual Meeting: Highlights from the 2010 American Urological Association Meeting, May 29-June 3, 2010, San Francisco, CA. Rev Urol 2010; 12 (2-3): e134-46.
- 2) 山崎春城. ケーススタディ: クリティカルパスの研究「前立腺がん地域連携クリティカルパス—大学病院の立場から—」. メディカルクォール 2010; 188: 24-7.
- 3) 鈴木康之. 高齢者の夜間頻尿への対応. LUTS プライマリケア 2010; 8: 10-2.
- 4) 大家基嗣 (慶応義塾大学), 井川靖彦, 田中吉則, 鈴木康之. 蓄尿障害の最近の話題 ガイドラインの活用. 泌外 2010; 22(4): 599-605.